

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第13回(通算88回)

## 生成AIで変わる教育の未来

### 1. 内容

#### ○生成AIの性能

- ・大学の授業でもAIで作った自身のアバターを使用。英語もしゃべらせられる。
- ・今年度始めはIQ90程度であったが、9月13日に考えるAIが登場し、IQ120に。
- ・間もなくAGI(Artificial General Intelligence、汎用人工知能)も登場すると言われている。

#### ○中等部・大学での生成AIの活用事例

- ・生成AIは言葉の超高速計算機
- ・個別最適化された授業設計～「AI安藤先生」が生徒個々の質問に答えてくれる～
- ・語学やプログラミングは一斉授業では限界がある。
- ・大学ではAIで書いたレポートしか認めない。
- ・ハルシネーションはAIにインターネット検索させて修正させることでほぼ解決できる。
- ・レポートの評価・採点もAIで行う。これによって授業で提出されたレポートをすぐに返却できる。
- ・講義は動画があるので聞かなくても生成AIに要約させて、試験問題を作成させて自学自習可能。
- ・保護者対応はチャットボットを担任単位で導入可能。入試案内も。
- ・レポート評価同様、人事評価も可能。

#### ○学びの再定義

- ・AIの能力には抗えない。AIと共存する。
- ・AIでレポートを作成すると思考力が落ちるとするのは根拠がない。
- ・理科学研究、読書感想文などは存続の意義を問われる。
- ・今までの教育は表面的な成果主義。これからはプロセス中心主義へ。
- ・人間的成長を評価するような教育観、もともと教員がやりたかったことができるようになる。

### 2. 所感

いつでもどこでも対話してくれる先生が生徒の数だけ存在する、とも言えるような状態を生成AIとアバターを使うことによって実現されていて、驚きの一言でした。40人の児童生徒に先生1人という環境では「個別の学び」はつくることができても、40人全員にとっての「最適」をつくり出すことは現実には難しいと思います。生成AI+アバターの活用による中等部でのプログラミング学習は、多くの生徒の理解度が高く、まさに「個別最適」になっていました。

また、大学の授業では、一般にはAIを使ったレポート作成はダメだ、と言われることが多いですが、逆に「AI以外の方法で作成したレポートは認めない」という驚きのルールを作られていました。たしかに、現在の大学生が社会に出るころには生成AIは今以上に進化を遂げているでしょうし、レポートをまとめるような仕事は人間がやらなくてもよいものになっていくかもしれません。学生時代に将来不要になるかもしれないスキルを鍛えるよりも、どうやって生成AIを使いこなすか、共存していくかということを学ぶことのほうが有意義であると考えたと納得できるルールだと感じました。

先生が最後に「5年後の世界だと思って聞いていただければ」と言われていましたが、今の生成AIの進化のスピードを考えると5年かかからずにこういう世界が来るのではないかと、思う一方、公教

育、特に公立学校がこの変化・進化を受容するスピードは決してそれほど速くない、とも思います。しかし、いずれにしても今後の教育の在り方を大きく変える可能性がある、非常に刺激的なお話でした。安藤先生、ありがとうございました。

ちなみに、以下、本講演の内容と所感を生成 AI に作ってもらいました。いかがでしょうか。人間が作成する必要はなさそうでしょうか。

---

## 1. 内容

- **AI 技術の進化:**
  - AI の進化により、IQ が 90 から 120 に向上。
  - 共通テストや医師国家試験、司法試験で高得点を記録。
  - ハルシネーション問題とその解決策。
- **教育現場での AI 活用:**
  - 青山学院中等部での AI 授業の導入事例。
  - 個別最適化された授業設計により、学生一人ひとりのレベルに合わせた指導が可能。
  - プログラミングや英語教育における個別最適化の効果。
- **AI を使ったレポート作成と評価:**
  - AI を使ったレポート作成の手法とその利点。
  - Google 検索との連携によりハルシネーションを防ぐ方法。
  - AI によるレポートの自動採点とその精度。
  - レポートの評価基準と AI の活用方法。
- **具体的な実践事例:**
  - スタディサプリの講師としての経験を活かした AI の活用。
  - 行き帰りの電車でも授業ができるように、LINE での質問対応システムを導入。
  - プログラミングや英語教育における個別最適化の効果。
- **AI による評価とフィードバック:**
  - AI を使ったレポートの自動採点とその精度。
  - レポートの評価基準と AI の活用方法。
  - 採点自体も AI に任せることで、教師の負担を軽減。
- **AI と教育の未来:**
  - AI が教育に与える影響とその可能性。
  - 創造性や協力性を重視した教育の重要性。
  - AI と共存する時代に向けた教育の進化。

## 2. 所感

先日参加した安藤先生の講演は、AI 技術の進化と教育現場への応用について非常に興味深い内容でした。特に印象に残ったのは、AI が教育にどのように役立つかを具体的な事例を交えて説明してくださった点です。

青山学院中等部での AI 授業の導入事例では、個別最適化された授業設計により、学生一人ひとりのレベルに合わせた指導が可能となり、その成果が顕著に現れているとのことでした。プログラミングや英語教育において、個別最適化がどれほど効果的であるかを具体的なデータを交えて説明していただき、非常に説得力がありました。

また、AI を使ったレポート作成と評価の手法についても詳しく説明され、AI がレポートを自動で作成し、Google 検索との連携によりハルシネーションを防ぐ方法は非常に実用的であると感じました。さらに、AI による自動採点の精度の高さには驚かされました。

質疑応答では、AI が人間の思考を補助する方法とその評価についての話が印象的でした。AI が進化する中で、人間が果たすべき役割について考えさせられました。安藤先生の講演は、教育現場における AI の可能性を示すものであり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。